

宇宙探査に関する国際的な検討の動向について

米国 (オバマ政権)	2030 年代の火星周回軌道への有人飛行が目標。基盤となる重量級ロケット(SLS)や多目的有人宇宙船(MPCV ORION)を開発中。有人火星探査を見据え、月近傍ステーションでの技術実証などを計画。月面有人探査計画は具体化していないが、2020 年代前半に月南極域の水氷無人探査ミッションを計画。 ※トランプ政権に伴う政策変更の可能性あり。
中国	2025 年以降の月有人探査及び月面基地を計画。2050 年の有人火星探査を目標。2017 年に「嫦娥 5 号」による月サンプルリターン、2018 年に「嫦娥 4 号」による世界初の月の裏側への着陸、2023 年頃の南極への着陸を目指しているほか、2020 年に最初の火星探査機を打ち上げ、周回と巡視の連携探査を行う計画。
ロシア	2030 年までに有人月周回飛行及び月着陸を実施する計画。その準備として複数の無人月探査で欧州との協力を検討。(2021 年には欧州と協力して南極域探査を計画。)
欧州	米国と協力して多目的有人宇宙船(MPCV)のうちサービスモジュールを開発中。無人探査においてはロシアなどとの国際協力を推進。(ロシアの月南極探査ミッションへ着陸センサやドリルの提供。無人火星探査ミッション ExoMars 計画でもロシアと協力。)



SLS(米国)



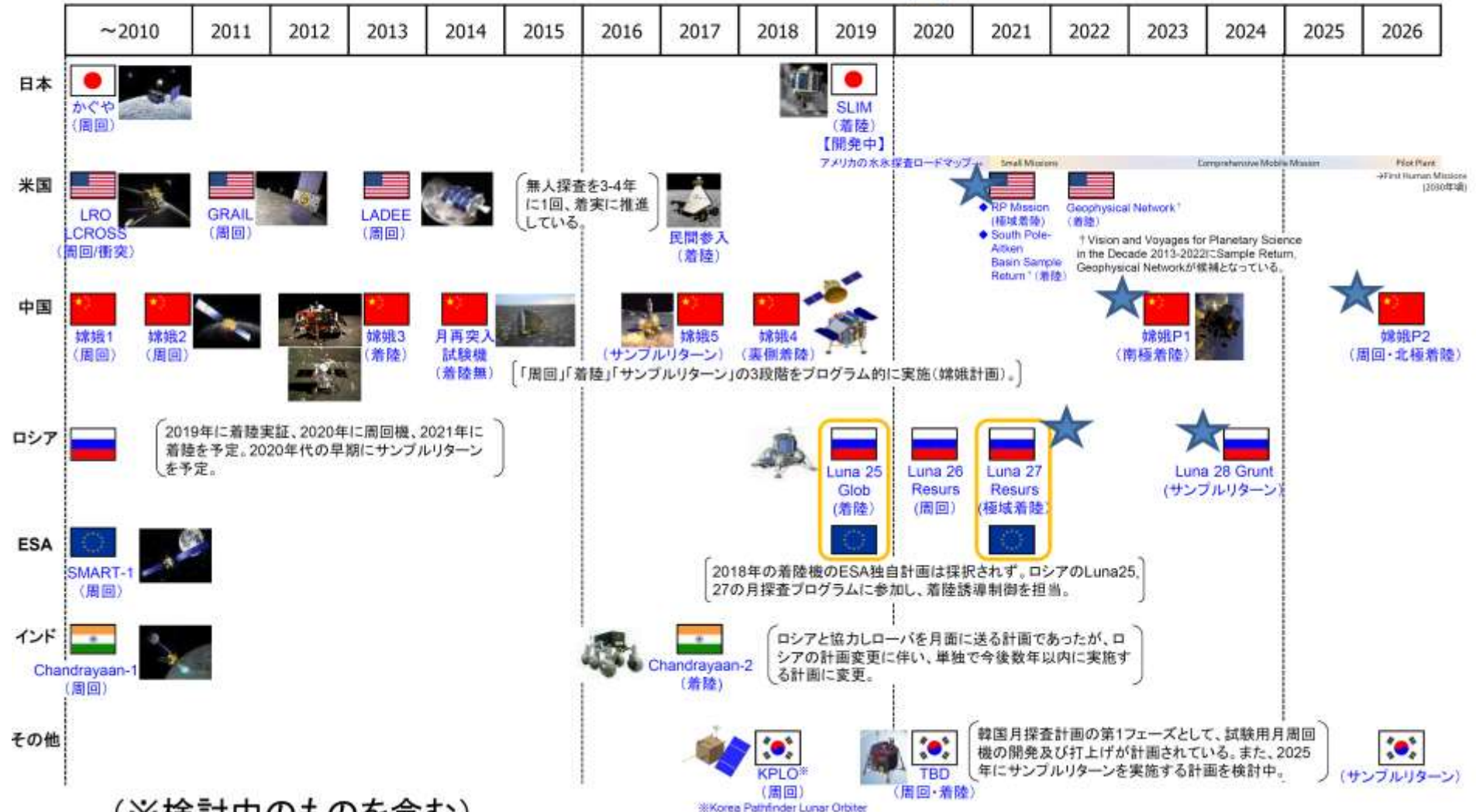
MPCV ORION(米国)



MPCV サービスモジュール(欧州)

各国の月探査動向

★ 極着陸ミッション



(※検討中のものを含む)